

シンポジウム「ウクライナ情勢をめぐる世界的展開」

下記の通り、同志社大学政策学会と同志社大学地域紛争研究センター共催によるシンポジウムを開催します。ご関心のある方は下記フォームから申し込みくださいませ。

■ 趣旨：2022年2月24日は、2001年9月11日と並び、国際政治の風景を一変させた日として長く記憶に刻まれることになるでしょう。それ程に、2月24日のウクライナ侵攻、その後の戦争は、ロシア、ウクライナのみならず、欧米や日本にも大きな政治・経済・社会的影響を歴史的に与えることになります。このシンポジウムでは、ウクライナ情勢を地域紛争からのみではなく、広くヨーロッパや国際政治の文脈から皆さんと考えてみたいと思います。

■ 日時：2022年5月19日（木）16:40～18:10

（付記：終了時間は会の進行により若干前後する可能性があります）

■ 主催：同志社大学地域紛争研究センター (<https://regionalconflict.sakura.ne.jp/>)
同志社大学政策学会

■ 開催場所：同志社大学新町キャンパス 臨光館 R201 教室（2F）〔アクセスは裏面参照〕

■ 当日の流れ（一部変更になる可能性があります）

16:40-16:45 開会の挨拶

16:45-17:05 吉田徹氏による報告（EUからみるウクライナ戦争：仮）

17:05-17:25 月村太郎氏による報告（バルカンから見るウクライナ戦争：仮）

17:25-17:45 富樫耕介氏による報告（コーカサスから見るウクライナ戦争：仮）

17:45-18:05 フロアとの質疑

18:05-18:10 閉会の挨拶

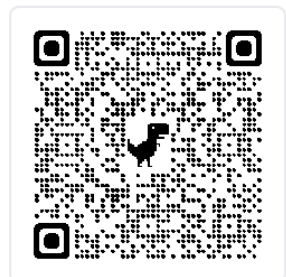
■ 申込期限：5月19日まで【先着150名】。

■ 申し込み方法：下記 google form より申し込みくださいませ。

右の QR コードからアクセスできます。

<https://forms.gle/egzdqPWATqQ2iAzT6>

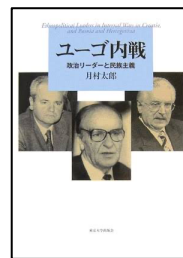
■ 照会先：政策学部事務室（075-251-3107、ji-seijm@mail.doshisha.ac.jp）
地域紛争研究センター（mail@regionalconflict.sakura.ne.jp）



■登壇者略歴■

月村太郎（同志社大学政策学部教授、同志社大学地域紛争研究センター長）

東京大学法学部卒業。東京大学助手、神戸大学法学部助教授・教授などを経て現職。主要業績として、『ユーゴ内戦』東京大学出版会（2006年・単著）、『民族紛争』岩波新書（2013年・単著）、『解体後のユーゴスラヴィア』晃洋書房（2017年・編著）



吉田徹（同志社大学政策学部教授）

慶應義塾大学卒業。東京大学総合文化研究科博士後期課程修了。パリ政治学院招聘教員、北海道大学法学研究科教授を経て現職。業績として、『ミッテラン社会党の転換』（2008年・単著）、『ヨーロッパ統合とフランス』（2012年・編著）、『居場所なき革命ーフランス1968年とドゴール主義』（2022年・単著）など。



富樫耕介（同志社大学政策学部准教授）

東京大学総合文化研究科博士後期課程修了。東海大学教養学部講師を経て現職。ロシア・東欧学会研究奨励賞（2019年）。シベリア抑留研究奨励賞（2022年）。主要業績として『チェチェン 平和定着の挫折と紛争再発の複合的メカニズム』明石書店（2015年・単著）、『コーカサスの紛争』東洋書店新社（2021年・単著）。



■アクセス■

同志社大学新町キャンパス：京都市上京区新町通今出川上ル近衛殿表町 159-1
 最寄り駅：「今出川」駅から徒歩 10 分
 詳しいアクセス・会場の臨光館については下記地図を参照下さい。

